資料２－１

国内のイヌワシ生息数の目標検討ワーキンググループ開催状況
平成 30 年～令和元年度

１　目的

「イヌワシ保護増殖事業計画」及び「イヌワシ保護増殖事業マスタープラン」では、「イヌワシが自然状態（イヌワシの保護を主目的とした取組が実施されていない状態）で安定的に存続できる状態」とすることが最終目標として掲げられている。

現状、採餌環境の減少等により、イヌワシの生息数の更なる減少が強く危惧されている。一方で、近年、狩場の創出を意識した森林管理が行われる等、イヌワシの生息数の増加につながる可能性のあるモデル的な取組が行われ始めている。

このため、今後、イヌワシの生息数の増加につながる取組みが全国各地で行われることを促すため、イヌワシの生息適地評価を行い、国内のイヌワシの生息地の状況を評価しつつ、国内でイヌワシが安定して生息するために必要となる個体数の推計を行い、これらの結果を踏まえて、全国のイヌワシ生息数の目標（案）を検討することを目的として開催した。

２　検討項目

（１）国内のイヌワシの生息地の状況の評価
（２）個体群存続可能性分析(PVA)
（３）（１）、（２）を踏まえ、国内のイヌワシ生息数の目標(案)

３　検討委員

（五十音順　敬称略　役職は当時）

赤坂　卓美　　帯広畜産大学 環境農学部 助教
小澤　俊樹　　日本イヌワシ研究会 会長
関島　恒夫　　新潟大学 農学部 教授　（座長）
前田　　琢　　岩手県環境保健研究センター 主査専門研究員
山﨑　　亨　　アジア猛禽類ネットワーク　会長

４　検討過程

●第１回ＷＧ　平成 30 年９月 20 日

- ワーキンググループの設置について
- シマフクロウにおける先行事例について
- 国内のイヌワシの生息地の状況の評価について
- 個体群存続可能性分析による絶滅の可能性の検討について

資料２－１

●第２回ＷＧ　平成 31 年 1 月 17 日

- 生息適地関連情報の取扱いルールについて
- 個体群存続可能分析(PVA)(試案)の説明及び議論
- 生息適地評価(試案)の説明及び議論

●第３回ＷＧ　平成 31 年３月 15 日

- 個体群存続可能性分析（PVA）の説明及び議論
- 生息適地評価の説明及び議論

●第４回ＷＧ　令和元年８月 7 日

- 個体群存続可能性分析（PVA）の説明及び議論
- 生息適地評価の説明及び議論
- 全体目標の策定について

●第５回ＷＧ　令和元年 12 月 5 日

- 個体群存続可能性分析（PVA）の説明及び議論
- 生息適地解析の説明及び議論
- 地域ブロック（案）について
- 全体目標（案）の説明及び議論
- 重要地域の抽出について

●第６回ＷＧ　令和２年 1 月 23 日

- 全体目標の説明及び議論、確認
- 重要地域の抽出について